

④「金儲け」

ノーベル医学生理学賞の大村智さんは、世界の13億人が感染の危機にさらされる「リンパ管フィラリア症」の特効薬を開発し、途上国で多くの人を救ったが、彼と志を同じくして熱帯病の制圧に尽力する人々がいる。スイス・ジュネーブに本部がある非営利団体「DNDi」と、それに連携する製薬会社らがそれだ。DNDiは、1999年にノーベル平和賞を受けた「国境なき医師団」が、手にした賞金をもとにパスツール研究所などとともに作った。熱帯病の治療薬は、値段が高すぎたり、副作用が強かったりして途上国では使えないので、東京など世界8カ所に拠点を持つDNDiは、世界の製薬会社や医療機関、大学を結び、熱帯病の新薬の共同開発を続けている。

実は日本の大手医薬品メーカー「エーザイ」は、日本でいち早く熱帯病問題に取り組み、DNDiだけでなく、世界保健機関（WHO）とも連携、リンパ系フィラリア症の治療薬を開発製造し、インドネシアなど世界30カ国近くは無償で提供、2020年までに22億錠を配るというから驚く。何と30億円以上かかるが、担当の水野満室長は「慈善や社会的な責任という意味ではない」と言い切る。将来の有望市場になることも見据え、途上国で「エーザイ」の名を浸透させる狙いを込め、儲かった時だけの場当たりの社会貢献でなく、社会的な問題を解決しながら、長期的に利益も得て、企業として持続して行く戦略を模索してるのである。大村さんの受賞により彼らの努力によろやく光が当たったが、一方で「あまり理解されず冷たい空気も感じた」と苦笑する水野さん。聖書には、

**「あなたの神、主のために、主が選ぶ場所で、七日間、祭りをしなければならない。あなたの神、主が、あなたの全ての収穫、あなたの手の全てのわざを祝福されるからである。あなたは大きい喜びなさい。」申命記 16章 15節、**

とあるように、儲けること、またそれを喜びドンちゃん騒ぎをすることを神は禁じていない。問題はそれを、友人や家族、さらに貧しい人や社会的弱者らと共に行うことだ（**同 14 節**）。ここで言う“祭り”とは礼拝を指し、神を敬うことを意味する。神を信じると口で言うのは容易いが、それは人を愛して初めてナンボのものであり、冷たい世間では“あまり理解されない”。人を愛し、十字架にかかったキリストを信じる道は険しい。

# DND*i*

Drugs for Neglected Diseases *initiative*



*hvc*  
human health care